

「おろし」か「凧」か — 「伊吹おろし」 もう1つの謎 —

名大生に親しまれてきた旧制第八高等学校（八高）寮歌「伊吹おろし」については、この連載の第219回で前口上の謎を取り上げましたが、八高時代からの本来の歌詞についても謎があります。

その最たるものが、曲のタイトルにもなっている「伊吹おろし」です。名大の『学生便覧』や『濃緑』（体育会機関誌）では、タイトルも歌詞も「伊吹おろし」です。しかし、この連載の第11回で紹介した、八高同窓会の八高会が、1958（昭和33）年に八高創立50周年を記念して鶴舞公園内に建立した歌碑では、タイトルは「伊吹凧」、歌詞は「伊吹おろし」になっています。八高や八高会が編さんした寮歌集でも、この使い分けが多いようです。

「凧」は難読漢字だから、歌詞ではひらがなにしたとも考えられます。ただ、歌碑の歌詞は、他の難読漢字にはふりがなをふってあるにもかかわらず、「おろし」なのです。また、この歌を文中で表記する際、八高卒

業生を含めてほとんどの人が「伊吹おろし」と記します。

八高で学び、この歌を作詞した中山 久氏は、その40年余りに後に歌碑が建立された頃、自筆の歌詞を残しています（写真4）。そこでは、タイトルも歌詞も「おろし」です。そのほかにも、1行目の「きえて」（歌碑では「消えて」）、2行目の「流れ」（歌碑では「流」）など、漢字やかな使いが異なっています。中山氏は、歌碑の除幕式に招かれて参列しています。

謎は解けないままですが、中山氏は『八高五十年誌』（1958年）において、「私によって作られた「伊吹おろし」の歌は、とうに私から離れてとうにもう私のものでは無くなっております。それは、四十年もの長いあいだを歌いつたえ、歌い育ててこられた旧八高の校友諸兄のものになっておるのであります。」と書いています。これから「おろし」と「凧」のどちらを選ぶかは、歌い継ぐ名大生なのかもしれません。



- 1 鶴舞公園内の歌碑。一番上のタイトルは「八高寮歌伊吹凧歌碑」。
- 2 歌碑裏側の碑文。こちらでは、「伊吹おろし」の方が使われている。
- 3 歌碑の除幕式（1958年9月）。写真2の碑文には6月1日とあるが、これは「八高創立五十年記念祭」が盛大に行われた日。名大瑞穂キャンパス（旧八高校地）で挙行された記念祭の式典には、勝沼精藏名大総長も出席している。
- 4 作詞者中山 久氏の自筆歌詞（コピー）。歌碑の建立に際して書かれたものと思われる。
- 5 約450名が参加した復活第3回東海学生会寮歌祭（2007年、名古屋国際ホテル）の一場面。戦後、旧制高校の寮歌は、卒業生たちによっても長く歌い継がれた。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金ご支援のお願い

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延しており、健康医療は言うに及ばず、私たちの社会活動に広範かつ深刻な影響を及ぼしております。名古屋大学の学生への影響も甚大であり、学ぶ意欲をもちながらも困窮している学生の支援や、遠隔授業等の学習環境整備により、質の高い教育活動を維持するため、ご支援をお願いいたします。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

